別紙1

令和8年度卓越した技能者の表彰各部門を代表する技能者について

（ 目 次 ）

第 1 部門	中村　佳永	（手かじ工）	第 12 部門	金野　勝政	（ガラス製品製造工）
第 2 部門	五十嵐　一雄	（旋盤工）	第 13 部門	三浦　勇	（木工）
第 3 部門	島谷　美之	（金属加工検査工）	第 14 部門	石塚　久子	（和生菓子製造工）
第 4 部門	橋本　守	（金属加工機械組立工）	第 15 部門	栃丸　保子	（着付師）
第 5 部門	田島　広人	（電気機械部品組立工）	第 16 部門	笹島　保弘	（西洋料理調理人）
第 6 部門	野嶋　泰	（自動車新技術開発実験・評価工）	第 17 部門	中澤　孝司	（箔押師）
第 7 部門	大川原　誠人	（染物・仕上工）	第 18 部門	金光　順次	（印章彫刻工）
第 8 部門	真鍋　康昭	（紳士服注文仕立職）	第 19 部門	－	（－）
第 9 部門	望月　成高	（宮大工）	第 20 部門	天野　和久	（微細加工実験工）
第 10 部門	内田　敦志	（かわらふき工）	第 21 部門	佐々木　信也	（漆器工）
第 11 部門	八戸　昇	（造園師）			

※ 職業部門、氏名（敬称略）及び職種を記載。

1部門	なかむら　よしなが 中村　佳永	68歳	手かじ工 【株式会社　竹影堂　TEL：075-241-2636　FAX：075-241-2646】	《名簿番号４》 京都府推薦

○【打てば響く磨けば光る！】

鍛金（たんきん）、鎚起（ついき）及び錺（かざり）の各技能に卓越し、貴金属の高精度な成形から立体造形、多様な金属加工技法を用いた加飾・組立て・仕上げまでを高度な手作業で行う技能を有している。

その高度な技能を活かし、平等院鳳凰堂垂木先金具の復元や大徳寺聚光院庫裏の引手・釘隠しの制作等、文化財や歴史的建造物の保存・継承に貢献してきた。

また、京都伝統工芸大学校特任教授として後進を指導するほか、若手職人の作品発表・販売機会の創出等を通じ、技能の継承と人材育成に尽力している。

○【手作業にこだわる】

三世竹影堂榮真を父に持ち、15歳で工房に入り、江戸時代後期・寛政時代から200余年受け継がれる京錺の道を歩み始めた。30歳を前に博物館で江戸時代の優れた金工品に触れた体験を機に、「技術だけでなく歴史や文化への理解が必要である」との考えに至る。

以来、自分が本当に作りたいものを追求しながら、機械のない時代から受け継がれる多種多様な技能の研鑽を重ねる。人の手で金属が加工され一つの作品となることを多くの方に知っていただきたいとの思いのもと、使い手の思いに寄り添い、作品を制作してきた。細かな要望にも応えられる手作業ならではの良さを大切に、繊細な技や温かみを伝えることを心掛けている。

本人近影





［金、銀、銅などの金属板や塊を、鎚と鳥口を用い、自由に伸ばしたり縮めたりする］



なんりょうほうじゅがたあみざくらゆわかし
［南鐐寶珠形網桜湯沸］

２部門	いがらし　くにお 五十嵐　一雄	51歳	旋盤工 【株式会社日立製作所 研究開発グループ広報企画ユニット TEL：070-3518-7715】	《名簿番号９》 東京都推薦

○【試作開発を支える高精度加工のエキスパート】

電子顕微鏡、半導体製造・検査装置などの試作部品加工に長年従事し、特に旋盤を用いた高精度加工及び難切削材の無変形加工に卓越した技能を有する技能者である。電子顕微鏡用対物レンズ部品の加工では、加工形状に応じた最適な切削条件による低ダメージ切削加工法を考案し、高精度かつ無変形な精密加工を実現した。

また、多数の試作装置の開発において加工技術の改善や安全性向上に貢献するとともに、精密旋盤加工で培った技能の伝承や技能検定指導を通じて後進の技能者育成にも尽力している。

○【μmの寸法精度にこだわり続けるものづくりへの情熱と挑戦の継続】

入社以来、33年にわたり精密旋盤加工を通して研究や製品開発のための部品加工に従事してきた。

試作開発におけるモノづくりの現場では、研究者や開発担当者の期待に応えたいという思いから、失敗の分析と改善を繰り返し、切削技能の向上に努めるとともに、高い寸法精度の実現に強いこだわりを持って取り組んだ。

職場や同僚の支えもあり、電子顕微鏡や半導体の検査・製造装置の部品試作では要求元から感謝の言葉をいただく仕事をすることもできた。

今後も高度技能者として成長し、挑戦していくとともに、後進の技術の伝承にも取り組んでいきたい。

本人近影





［高度な要求を実現するため芯出し作業］



［電子顕微鏡用磁気シールドチャンバ部品］

３部門	しまや　よしゆき 島谷　美之	62歳	金属加工検査工 【トヨタ自動車株式会社　トヨタ技能者養成所　工藤 芳 080-6986-9792】	《名簿番号21》 愛知県推薦

○【卓越した技能で品質を守り、伝承で未来を創る匠】

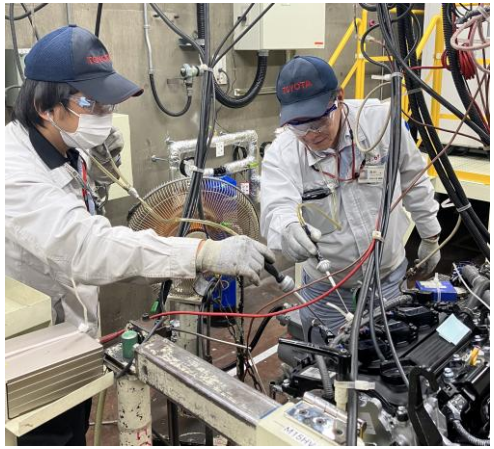
エンジン部品の金属加工・組付及び品質管理において、卓越した技能を有している。
五感を活用した微細な異常検知に優れており、精密測定技術とエンジン評価技能を駆使して品質向上に大きく貢献している。
さらに、検査装置の開発や測定標準の改定、海外支援等を通じて品質基盤の強化を推進した。
また、管理監督者として若手技能者の育成や技能の伝承に尽力し、資格取得支援やQCサークル活動の指導を通じて、組織全体の技能・品質レベル向上に貢献している。

○【なぜを追い続け、本質を明らかにしたいという探究心】

父は漁師として、水揚げを左右する道具や仕掛けに自ら工夫を凝らし漁に挑み続けていた。幼少期から「今日より明日、もっと良い仕掛けを」と試行錯誤を重ねる父の姿を見て育ち、現状に満足せず改善を追い求める探究心を学んだ。その影響からものづくりへの情熱を抱き、トヨタ自動車へ入社した。
高度成長期とモータリゼーションの発展の中で育った自身にとって、自動車は暮らしを支え社会を豊かにする象徴的な存在であった。ゆえに、品質を支える仕事に使命感を抱き、父から受け継いだ「今日より明日、もっと良く」の精神を胸に、品質の本質を追究し、技能と技術を磨き続け、今なお「より良い品質、より良いものづくり、より良い人づくりの実現」を目指し挑戦を続けている。

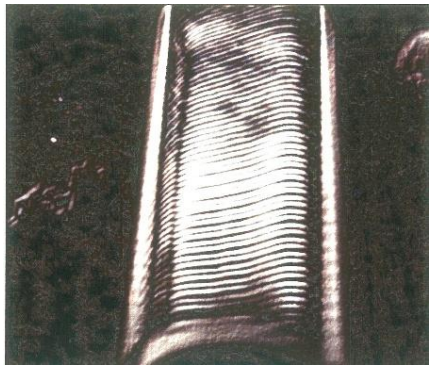
本人近影



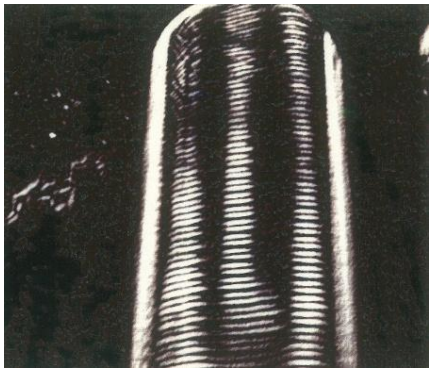


［エンジンの異音確認作業］

凹凸なし



凹凸あり



［表面の凹凸を可視化した技術 創意工夫文部科学大臣賞受賞］

４部門	はしもと　まもる 橋本　守	55歳	金属加工機械組立工 【株式会社ミツトヨ　TEL：0823-70-3720】	《名簿番号28》 広島県推薦

○【部品加工・組立精度の高精度化を追求できる、手仕上げ技能の構築と継承】

精密測定機器製作において、ラップ仕上げやキサゲ仕上げなどの卓越した技能を有している。
高精度機械組立の標準となる信頼性の高い製法・評価手法を確立することにより、製品・設備の性能向上と品質安定化に大きく貢献し、その技術は他製品へも展開されている。
また、技能検定委員や「ひろしまマイスター」として後進の育成に尽力し、技能の伝承と人材育成を牽引している。

○【培われた技能を次世代へ継承】

1990年の入社から現在まで、自製の設備製作部門に携わっており、高精度な設備製作に必要な手仕上げ作業について経験を積んできた。当時の諸先輩の指導を忠実に守りつつ、製法、評価方法については、適正な手法を自ら構築してきた。当時の職場には、同世代は私しかおらず『やらざるを得ない』環境に身を置くことで、それらを自身の責任感と活力にも代えられる恵まれた環境にあったと感じている。技能習得の早期化として技能検定取得にも積極的に取り組んだ。
人材育成に関しては、後進の育成とともに、社内の職業訓練校、技能検定（仕上げ部門）の講師を20年以上務めあげ、多くの後輩育成に携われたことで、教え方の難しさについて学ぶ経験も自身の鍛錬につながった。これらの経験から、自ら考え行動する意欲とあきらめない気持ちを心がけること、失敗してもそこから学びに変えていくことができる『技能』を後進に伝えていきたい。

本人近影





［円筒部品のラップ作業風景］





［キサゲ作業の指導風景と作品例］

５部門	たじま　ひろと 田島　広人	67歳	電気機械部品組立工 【株式会社　協豊製作所　本社　TEL：0565-28-1881】	《名簿番号38》 愛知県推薦

○【社会に喜ばれる製品づくり、人の和、現地現物を大切にして卓越した技能で人材育成と社会貢献】

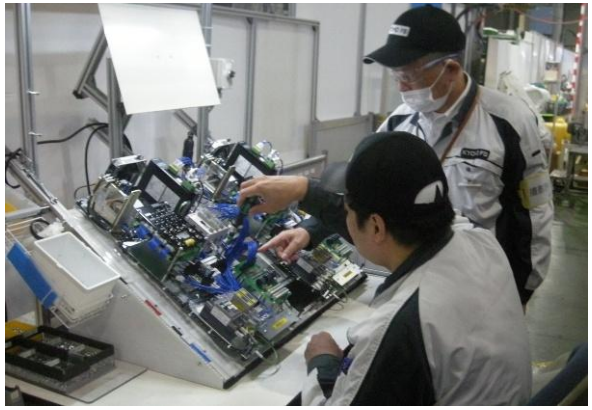
入社以来、各種専用設備の電気制御・電子分野に従事し、組付け・調整から現地メンテナンスまで一貫して対応できる卓越した技能を有している。
ETC設備では原価及び消費電力の大幅な低減、高耐久性を実現し、全国への普及に貢献した。
また、工場インフラ整備や海外工場支援、太陽光発電導入などを主導するとともに、人材育成や技能の伝承にも尽力している。
さらに、地域活動を通じて小中学校生徒も含め、後進の育成に取り組み、ものづくり技術の発展と社会貢献に寄与している。

○【素直な心で何事にもチャレンジ　ものづくりは人づくり！　AI時代にも負けない技能を磨く】

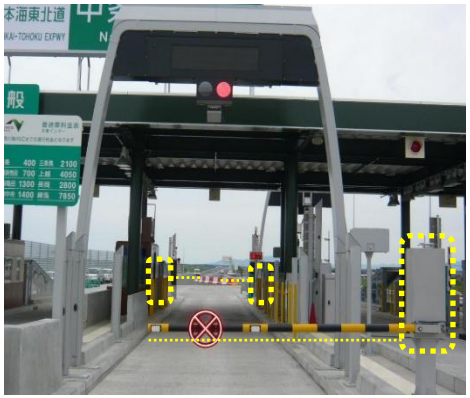
中学生の頃より電気工作や無線を趣味とし、入社以来50年にわたりものづくりに従事してきた。
４種の国家技能資格を取得し、自動車生産設備ではエンジン、ボデー、駆動系、HEV、車載電池、FCEV、ロボット等、幅広い分野の設備製造・導入を担当した。ほかにテレビ、新幹線ホーム掲示器、医療機器、環境設備の製造にも携わり、多くの新規プロジェクトを経験した。ETC設備では、ともに切磋琢磨した後進たちがTPS改善活動を積み重ね、全国シェアNo１を維持している。
現在は、省エネルギー、再生可能エネルギー、脱炭素社会の実現に向けた活動を推進するほか、国家技能検定委員として20年以上活動し、技能・環境推進員として、小中学生へものづくりの楽しさや大切さを伝える等、後進の育成に取り組んでいる。
これらの活動は、多くの先輩、仲間、お客様、仕入先様、地域の皆様の支えによるものであり、心より感謝している。

本人近影





[ETC発進制御機　制御部の指導風景]





[全国高速道に約2000レーン設置の発進制御機]

６部門	のじま　やすし **野嶋　泰**	61歳	自動車新技術開発実験・評価工 【トヨタ自動車株式会社東富士研究所 パワーソース先行開発部　TEL：055-997-7722】	《名簿番号45》 静岡県推薦

○【未来のクルマに向けた技術開発　新しい試験方法を考案し構築】

氏は「内燃機関組立て」と「電子機器組立て」の特級技能士として高い技能を持ち、高性能で環境に優しい次世代のパワートレーン開発に貢献してきた。前例の無い試験方法を考案し構築する能力に卓越し、従来では対応できない課題に対し革新的な解決策を提供する。

また、多数の特許出願や画期的な試験装置を考案し、環境負荷を低減する技術の開発において重要な役割を果たす。その知識・技能は社内トップレベルで、社内称号『技術開発の匠』を拝命し、後進の指導育成と多数の技能士育成に貢献している。

○【やった事がない事もチャレンジ　やりがいを自ら生み出す】

子供の頃からクルマ好きで、高校はトヨタ自動車の企業内訓練校に進学した。『未来の技術開発に携わりたい』という思いから、担任に頼み込んで東富士研究所に配属され、エンジン、電気自動車、トランスミッション、ブレーキ等、幅広い業務を経験した。電子回路に長けた師匠に出会えたことで、電子回路技術と『どんな困難な事にでもチャレンジする精神』を学び、多くの試験方法の考案に繋げられた。

近年は『保有車のカーボンニュートラル』に取り組み、多くの方の協力を得ながら旧車に最新エンジンを搭載した『AE86 G16Eコンセプト』をイベントに出展し、一人の力よりも多くの方の協力を得ることの重要性を実感した。今後は感謝の気持ちを持ちながら後継者の育成に努めるとともに、未来のお客様と地球環境のための技術開発に努めていく。

本人近影





［エンジン信号計測指導の様子］



［多くの方と協力して作った提案車　AE86-G16Eコンセプト］

７部門	おおかわはら　まこと 大川原　誠人	64歳	染物・仕上工 【有限会社　大川原染色本舗　TEL：087-821-5769】	《名簿番号50》 香川県推薦

○【のり染の技術を極め、故郷の文化を守り伝える】

讃岐のり染（筒描き、印染）において優れた技能を有している。
もち米から作ったのりを筒先から搾り出しつつ筆のように操り、細やかな線による各種デザインや文字の表現を成し遂げる技能により、香川県の獅子舞文化に必須の油単をはじめ、各種染製品の制作に精力的に活動している。
社内での後継者の育成に留まらず、全国印染経営研究会において会長、現在は相談役の任を務め、全国の印染の製造現場における技能指導等を行う。また、各種ワークショップ等の講師を引き受け、普及啓発活動にも積極的に取り組んでいる。

○【伝統を受け継ぎ、未来に生かすものづくり】

200年以上続く老舗の長男として生まれ、後を継ぐことに葛藤や反発もあったが、高校生の時、父がワシントン大学に染の講師として招かれたことで、染物は世界からも認められる技術だと見直し、芸大染織科に進学して染の基本と芸術を学んだ。
そして、のり染めの技法の中でも特に難しく全国的にも出来る人が少ない「筒描き」の技術を習得し、近年要望が多様化している獅子舞の衣装である油単（ゆたん）の新柄制作に力を入れ、美術品といっても良いレベルまで極めた。
また、小学校の体験授業を受け入れる等、のり染の魅力を未来を担う子ども達に伝えている。お米を食べる民族だからこそ生まれた日本特有の「のり染」の技術と文化を伝承するために、従来のものだけでなく時代に合わせた新しい商品や現代美術の作品作り等、未来に生きる伝統工芸のあり方を考え、常に新しいことに挑戦し続けている。

本人近影





［もち米で作った糊を筒に入れ、のり置きをする］



［香川の獅子舞油単　風神雷神］

８部門	まなべ　やすあき 真鍋　康昭	59歳	紳士服注文仕立職 【テーラーまなべ　TEL：03-3391-8135】	《名簿番号54》 東京都推薦

○【手縫いオーダースーツの技術の伝承】

高級手縫い紳士服製造の技能に優れ、特に難しい剣衿（けんえり）の仕立てや手縫いによるボタンホールは業界屈指の実力を有す。
近年では、新素材に対しての縫製研究を行い発表するほか、先代から続く技能講習会だけでなく、若手技能者に向けた講習会を実施する等、高級手縫いによるフルオーダー技術の伝承と研究に尽力している。

○【手縫いの技を、次の世代へ】

18歳で実家のテーラーまなべに入り、父や職人から仕立ての技術を学び始めたことを原点に、手縫いオーダースーツの仕事に従事してきた。
一人ひとりの体型やライフスタイルに合わせ、一針入魂の精神で仕立てることを大切にし、技能コンクールにも挑戦した。世界マスターテーラーベルリン大会では、「金の針　金の糸」と題した採寸・型紙製作・縫製等の技術を競う第１回技能グランプリが開催され、第１位を受賞した。
長年培われた手縫いの技術を自分一代で終わらせることなく、職人を目指す人や手縫いに興味を持つすべての人が学べる環境づくりなど、受け継いだ技術を次世代へ伝え、日本の手縫いオーダースーツの技術を未来へつなぐことを職人としての使命と考えている。

本人近影





［手縫いオーダースーツのお仕立て風景］





［第28回全日本注文紳士服技術コンクール
内閣総理大臣賞受賞］

９部門	もちづき　しげたか 望月　成高	54歳	宮大工 【株式会社望月工務店　望月建築設計室　TEL：0532-53-2445】	《名簿番号58》 団体推薦

○【伝統の技と現代の知を融合し、未来へつなぐ宮大工 】

宮大工として、伝統木造建築の設計・施工、文化財建造物の保存修理・復元、社寺彫刻等に長年従事している。木の性質を読み、一本一本の材を見極め、伝統的構法と現代の構造解析を融合させ、文化財の保存と耐震性の両立を図るとともに、その技能を現代住宅にも展開している。これらの取組は国内外の建築・デザイン賞で高く評価されている。

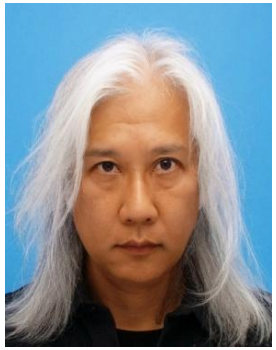
また、若手技能者への実技指導、大学等での教育、海外の建築実務者への技術指導を通じ、伝統建築技能の継承と発展、次世代の技能者の育成に尽力している。

○【百年、二百年先へ、技と建築をつなぐ】

宮大工として社寺建築の世界に入り、修業時代には木の癖や性質を読み、一本一本の材を適材適所に活かすことの難しさと奥深さを体得しながら、技を磨く日々を過ごした。社寺建築に携わる中で、先人から受け継がれてきた伝統技能と建築に向き合い、その価値と継承の重要性を実感した。近年は、建築の画一化や担い手の減少によって伝統技能が失われていくことへの強い危機感を抱き、伝統の墨守にとどまらず、現代の構造解析や設計と融合させ、今の時代に生きる建築として発展させることへの挑戦を続ける。

文化財、社寺建築、住宅を通じて培った技能を、若手技能者や学生、海外の建築実務者へ伝え、先人から受け継いだ技と建築を100年、200年先の未来へ引き継ぐ責務としている。

本人近影





げぎょ
［懸魚彫刻］





［星野神社　覆殿新築／本殿懸魚修復・復元］

10部門	うちだ　あつし 内田　敦志	69歳	かわらふき工 【建商内田瓦店　TEL：054-345-2508】	《名簿番号63》 静岡県推薦

○【瓦　合端作業】

　かわらふき技能のうち、合端作業（特にたがね作業）及び、棟積みに卓越しており、同業者からも一目置かれている。施工性、安全性の向上のため、寺社仏閣の反り屋根に張る糸の代わりに、鎖を張るための治具を考案し、足場を簡単にかけられるようにした。
　また、自身が技能グランプリに出場し第３位に入賞した経験を後進の技能者に伝え、入賞者を輩出した。さらに、平成26年から数年にわたって技能検定委員に就任する等、業界の発展に大きく貢献した。

○【少しでも　その差が技能を極めた】

　若い頃にずぶの素人から今の仕事に就き、少しでも早く多くのことを覚えたいという思いは昔から人一倍強かった。最初はうまくいかず大変多くの苦労をしたが、失敗の度にその原因を追及し改善をして、どんな時も技能の研鑽を惜しまなかった。その気質から反り屋根の治具の考案や、袖丸・利根丸の施工を足場の良い地上で行うことができる器具の考案に至った。
　他の人より「少しでも良い仕事をし、また少しでも喜んでもらえる仕事を」と思い努力をしてきた。そんな日々をふと追憶すると、かわらふきへの情熱を持って、自分の腕を磨き、人のためにと働いてきたことは、そんなに大変なことでもなかったような気さえする。

本人近影





［合端作業風景］



みのこう
［社寺の箕甲］

11部門	やえ　のぼる 八戸　昇	67歳	造園師 【有限会社八つ葉園材　TEL：0957-22-1948】	《名簿番号70》 長崎県推薦

○【竹垣を使用した作庭が得意】

造園師として約50年精励し、繊細な技術と豊富な経験が必要とされる竹垣を得意とし、造園の伝統的な手法に精通している。施工主の意向と自然の景観に配慮した作庭を行い、個人の作庭から公共の仕事まで幅広く活躍している。

また、技能検定委員として20年以上後進の指導に携わり、「ものづくりマイスター」として自ら中学校や高校へ出向き、造園の魅力を伝えている。

○【父の背中を見ながら、庭師を生涯の仕事と思い取り組み】

庭師を続ける中で常に心掛けていることは、施工主の立場に立って、何事にも全力で決して手を抜かないという気持を大切にすることである。

庭を作る時、「昨日より今日、今日より明日」と、良い仕事ができるよう日々精進し、お客様に喜んでもらう庭を造ることが自分の使命だと思う。そのため、目で見て、手で触れ、体験することによって感性を磨き続けることが重要で、これまで出会ったお客様や同じ造園の職人、ほかの職種の方々から多くのことを学び、私を育てていただいたことについては感謝しかない。

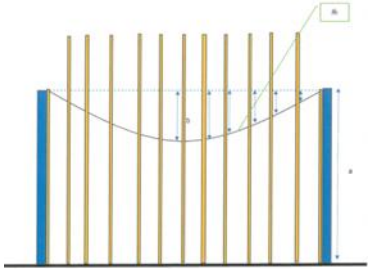
造園師とは、技とお客様の合体で、末永いお付き合いができる素晴らしい仕事である。

本人近影





[眼鏡橋のある諫早公園金閣寺垣の作業風景]





[野面積の基礎と糸を利用した伝統的手法で制作された竹垣]

12部門	こんの　かつまさ **金野　勝政**	83歳	ガラス製品製造工 【ＨＡＲＩＯ株式会社　TEL：0280-76-0661】	《名簿番号74》 茨城県推薦

○【50年超の熟練で極めた、手吹きガラス成形の匠】

50年以上にわたり、手吹きガラス製作に従事している。高度な温度管理や熟練の息遣い、回転操作、成形等一貫した技術を要し、特にガラスの肉厚を均一に成形する卓越した技能を有する。

理化学品をはじめ、「ＨＡＲＩＯ」を代表するガラスのヴァイオリン、チェロ、古箏（こそう）等の高度な成形を手掛けた。硝子成形技能検定一級を取得し、若手職人を育成する等、希少な手吹き技術の継承と地域・産業の発展にも大きく貢献している。

○【耐熱ガラスと向き合い、技を磨き、その技を未来へつなぐ】

常に「より良いものをつくりたい」という思いを胸に、一つ一つの製品と真摯に向き合ってきた。長年携わっているが、尽きる事のない奥深い職種だ。私がこの仕事を志した原点は、小学校の頃、家にあった仏壇の大きな花瓶を誤って割ってしまったことだ。その時に「いつか自分の手で作ってみたい」と思ったことが、モノづくりへの興味に繋がった。職人となった若い頃は、吹きガラスの技術をなかなか覚えられず、先輩社員に厳しく叱られ、悔しい思いをしたこともあった。それでも「より良いものをつくりたい」という一心で技術を磨いてきた。

これまで培った技術や経験を若い世代へ伝え、一人でも多くの手吹きガラス職人を育てることも大切な使命だ。これからも技術の継承をしていく。

本人近影





［手吹きガラス　若い世代へレクチャー］





［左　ガラスのヴァイオリン（楽器）・右　ドナウ（茶器）］

13部門	みうら　いさむ 三浦　勇	84歳	木工 【角館工芸協同組合　TEL：0187-53-2228】	《名簿番号82》 秋田県推薦

○【樺細工に描く抽象と具象、二つの世界を極めた唯一の技】

樺細工とは山桜の樹皮を使用して作られる工芸品である。氏は幾何学模様から具象的な山水花鳥まで自在に模様付けを行うが、この両面を高水準で作り分けられる伝統工芸士は氏のみである。

このような氏の卓越した技能が評価され、経済産業大臣表彰をはじめ、数多くの賞を受賞している。

技能の伝承においては、若手従事者へ実演を通じて日常的に行っており、また、子ども向けの樺細工体験学習や一般向けの樺細工体験で指導にあたる等、樺細工の普及と裾野の拡大に尽力している。

○【お客さんに喜んでもらえる、ものづくり】

お客さんに喜んでもらえる、ものづくり。

古来の技法を守る務めと、自分なりの考えを付け足し新しいものを探す挑戦の両輪が、未来へと伝統を繋ぐものだと信じている。

近年、原材料の山桜の皮は大変希少なものとなっているからこそ、一枚一枚と向き合い、その個性を余すことなく活かしきることを己の信条とする。

後に続く若い人には、どうかあきらめずにこの仕事の面白さを見つけてほしい。その道を少しでも歩きやすく整えていくこと。それもまた、次代へ伝統を繋ぐ自分の役目であると考えている。

本人近影





［図案を小刀で切り出す作業］



［具象模様の作品］



［抽象模様の作品］

14部門	いしづか　ひさこ 石塚　久子	48歳	和生菓子製造工 【千葉県菓子工業組合　TEL：043-225-0153】	《名簿番号90》 千葉県推薦

○【伝統を受け継ぎ、新たな和菓子の表現へ】

和生菓子製造工として、菓子の素材を用いた山水花鳥風月を主題とした工芸菓子(観賞用の飾り菓子)の製作に卓越した技能を有する。
高度な技能・技法と優れた芸術的センス、そして実物の動きを観察する類まれな観察力で本物と見まごう完成度に仕上げられている。
全国菓子大博覧会では最高位の名誉総裁賞を女性初で連続受賞する等、工芸菓子を製作する女性技術者の第一人者である。また、日本菓業振興会の技術部に所属し若手技術者の模範となり、後進の指導に意欲を注いでいる。

○【技を磨き、心を込めて、喜ばれる和菓子を】

和菓子屋の一人娘として幼い頃より職人である父の姿を見て育ち、製菓学校卒業後和菓子の道へ進んだ。父を師と仰ぎ、「その技術や味を身につけたい、季節の移ろいを映す和菓子の奥深さや魅力を表現できる職人になりたい」と励んできた。
また、工芸菓子の芸術性や華やかさにも強く惹かれ、壁にぶつかりながらもコンテスト等に出品し、先生方や先輩方のご指導のもと経験を積み、作る楽しさも学んだ。生菓子とは違う芸術性や表現方法も、日々の菓子作りの一部となっている。
和菓子は見て楽しみ、食べて心が和み笑みがこぼれ、時に人の人生にも寄り添うものである。受け継いだ技術や知識を後進へつなぎつつ、一つ一つに真心を込め、お客様に喜んでいただける和菓子作りを信条とし精進したい。

本人近影





[工芸菓子製作風景]



[名誉総裁賞受賞作品・瑞彩]

15部門	とちまる　やすこ 栃丸　保子	56歳	着付師 【ふさ美容室　TEL：0195-66-3103】	《名簿番号101》 団体推薦

○【着付師として】

長年、着付け技能を中心とした美容技能の研鑽に努め、特に着付帯結びにおいて、時代の変化や消費者のニーズの多様化に合わせて、数多くの創作発表を行ってきた。

各地の講習会や研修会で講師を務め、自らの技能を継承していくとともに、その技術力と指導力で若手技術者に対してコンクールの指導を熱心に行い、優秀な人材を多く輩出する等後進の指導育成にも大いに貢献している。

○【受け継いだ技を磨き、次の世代へ】

子供の頃、先代がお支度した白無垢に角隠しの花嫁姿を見て、その美しさに心を奪われた。

日本舞踊を習い、着物が身近だったこともあり、着付けの道へ進んだ。

全日本美容技術選手権大会への出場を機に本格的に着付けを学び、２度目の挑戦で日本大賞を受賞した。その後、更なる研鑽を積み、日本着付学術会の「名人」の称号が授与された。

美しい着物姿を生み出すために、それぞれの体形に合わせた補正（下地作り）を研究し、その奥深さに魅せられ、夢中で技術を追求してきた。技術に終わりはない。だからこそ、これからも学び続け、会得した全ての技術を余すことなく後進に伝え、日本の伝統文化である着付けを継承していきたい。

本人近影





［岩手女子高校での出張授業風景］



［千代の萩、古典的な振袖や花柄の振袖と相性が良く、華やかでかわいらしい帯結びとして、特に若い方々に好評を博している］

16部門	ささじま　やすひろ **笹島　保弘**	62歳	西洋料理調理人 【有限会社笹島　TEL：075-532-2550 （リストランテ・イルギオットーネ内）】	《名簿番号113》 団体推薦

○【京都イタリアンを確立した】

イタリア料理と京料理を融合し、季節の彩りとその土地の風土を感じさせる組合せを多数考案してきた。また京料理の花形「お椀もの」をパスタに見立て、イタリア料理にはない四季の彩り、味わいをパスタで表現している。

さらに昆布出汁をパスタに用いてパスタそのものへ【旨み】を付与する方法は大変な注目を集めた。ミラノＥＸＰＯでは全日本料理団へ参加し、東京で開催されているイタリア料理の展示会を京都へ誘致する等、日本におけるイタリア料理の普及・発展に寄与している。

○【イタリアへの敬意と私としての解釈】

専門学校の学費を稼ぐために高級レストランでアルバイトをし、当時のシェフから専門的な料理をすることを勧められた。当時はデザインの道に進みたくてイタリアの書物等を読んでいたため、イタリア料理の世界へと進んだ。

料理への想いとしてはまず、「私はイタリア人ではない」という考えが根底にある。料理にはその国ならではのDNAに組み込まれたものがあり、日本人の私がイタリア料理をどう表現していけば良いのかを考えた結果、「もしイタリアに京都という州があったら」という今のコンセプトにたどり着いた。

多くの後輩たちが私の元から巣立ち、各地でイタリア料理店を展開している姿を見て、いつか私がこの世からいなくなっても仕事の結果が残っていけば私が産まれた意味もあるのではないかという思いを持ち、今後もイタリア料理業界に貢献していきたいと考えている。

本人近影





［パスタを茹でる湯に昆布を入れて、茹で出汁にする］





［左：生うにとオクラの冷製パスタ　右:生ハムと朝掘筍のパスタ
ともに昆布出汁で茹でたパスタと季節を感じる旬の食材を用いる］

17部門	なかざわ　たかし 中澤　孝司	73歳	箔押師 【株式会社金箔押山村　TEL：075-583-5153】	《名簿番号127》 京都府推薦

○【伝統的な箔押技法で寺院仏具・文化財を新調・修復】

氏は、京都の伝統的な箔押技法である「重押し」をはじめ、「二度押し」や「拭い粉」による仕上げ、大型の平面にムラなく箔押しを施す高度な技能に卓越している。その技能を活かし、知恩院、西本願寺、東本願寺、築地本願寺等の寺院仏具や文化財の新調・修復、安土城天守復元や迎賓館赤坂離宮修復に貢献してきた。

また、金箔押技術を活用した新製品開発や海外展開を推進するとともに、多くの弟子の育成、業界研修の実施及び技術指導を通じて後進の育成と技能の継承に尽力している。

○【受け継いだ技を、次の時代へ】

30歳で配偶者の実家の家業である「金箔押師」に弟子入りして以来、43年にわたり研鑽を重ね、寺社仏閣や文化財の修復・新調をはじめ様々な仕事に携わってきた。金箔押しは、その日の気候や湿度、下地の状態を見極めながら行う必要があり、繊細な技術と長年の経験が求められる。

京都の歴史と文化の中で育まれ、受け継がれてきた伝統と技術を次の世代へ繋いでいくことを使命としており、多くの弟子を伝統工芸士に育て上げている。また、産地としての京都の素晴らしさと技術力の高さを実感し、伝統的な箔押技法を、現代アート作品やインテリアなどの新たな分野に活用する等、異業種との交流や次世代に金箔押しの魅力を伝える活動に注力している。

本人近影





[仏像の背板：漆の乾き具合を見極めつつ、広い平板にムラなく金箔を押す]



[華鬘(けまん、荘厳仏具)：繊細で細かな彫刻に金箔を押し、さらに一部に金粉･プラチナ粉を押し重ねた]

18部門	かなみつ　じゅんじ **金光　順次**	54歳	印章彫刻工 【金光印舗　TEL：086-942-6783】	《名簿番号130》 岡山県推薦

○【印章彫刻技能を継承】

一級印章彫刻技能士の資格を有し、印章六書体の中でも、とりわけ実印等の重要印章に使用されている篆書（てんしょ）体を得意とし、全国印章技術大競技会や技能グランプリで優秀な成績を収める等、卓越した技能を有している。

現在は、岡山県印章技能士会の会長として篆刻体験教室等を実施し、技能士の地位向上に尽力している。

また、技術講習会の講師として印章の知識・技能を指導するほか、「ものづくりマイスター」として学校等で児童に講義や篆刻体験を行っている。

○【手彫り印章彫刻の奥深さに魅せられて】

印章店を営む一級技能士である父親の熱心な仕事ぶりに感化され、家業を継ぐことを決意する。以後、技術講習会への参加を機に手彫り印章彫刻に没頭することとなる。

印章彫刻は緻密な作業であるが、最も苦心する作業工程はレイアウトであり、使用する材料の彫刻面の形状（四角・正円・楕円）やサイズに加え書体も様々であるため、作製する条件を加味し、上手く調和させることが難しい。こうした作業であることから、日々の研究が必要となってくる。

手彫り印章彫刻においては、一つとして同じものはなく、自らが作製した「印章」が、実印や銀行印、法人印等の重要印章として使用され、個人・企業等の権利や財産の安全性・信頼性への確保に貢献できるよう、現状に満足することなく、更なる技能の研鑽に努めている。

本人近影





[作製依頼の印章を、要望を踏まえてレイアウトを行い、仕上がりをイメージした下書きを試行錯誤を重ね作成し、手彫り彫刻作業を行っている]



[得意とする書体「小篆体」の作品、天皇陛下在位三十年記念第30回技能グランプリ　金賞・厚生労働大臣賞受賞]

20部門	あまの　かずひさ 天野　和久	61歳	微細加工実験工 【独立行政法人造幣局　TEL:06-6351-5319】	《名簿番号137》 大阪府推薦

○【貨幣の美しさと偽造抵抗力を創造する微細加工の匠】

貨幣の偽造抵抗力の向上に関する研究開発、製造技術の高度化及び製造工程の効率化に関する研究業務に長年従事し、特にマシニングセンタ、レーザー加工機及び電子線描画装置による微細加工において高度で卓越した技能を有している。研究開発に携わった潜像加工、虹色加工、ホログラム潜像加工等の加工技術は、様々な記念貨幣に採用されている。

また、長年の経験による優れた技能と知識をもって後輩職員への指導に尽力し、貨幣の偽造抵抗力に関する技能の伝承に大きく貢献している。

○【失敗を恐れずチャレンジする気持ちを貫くこと】

造幣局入局当初は製造部門に所属し、貨幣製造業務に従事していた。その後、組織改編に伴う異動の機会に、自ら新しいものを生み出せる部署で働きたいと希望し、研究開発部門へ配属された。配属当初は新技術の開発業務を担当したが、それまで全く経験のなかったコンピュータ技術を一から学ぶ必要があり、戸惑いを感じることもあった。しかし、数年間にわたり研究に取り組む中で理解を深め、研究成果を実用化へと結び付けることができた。この経験は、その後の研究活動における大きな自信となった。さらに、その経験を基盤として、500円貨幣の改鋳や記念貨幣製造に不可欠な偽造防止技術である微細加工技術の研究にも携わった。

こうした経験を通じて、「未知の分野であっても、常に興味を持って学び続ければ、やがて成果に繋がる」という信念を培うことができた。現在は、後輩職員とともに研究を進める中で、この考え方を技能と併せて伝承している。

本人近影





［レーザー加工機による貨幣用金型への梨地加工］



［貨幣用金型（左）へレーザー梨地加工した金型（右）］

21部門	ささき　しんや 佐々木　信也	84歳	漆器工 【Kiborian Room 佐々木工房　TEL：047-372-4321】	《名簿番号141》 一般推薦

○【木材の選定作業から仕上げまで、全ての工程を一貫して行うものづくり】

幼少期より耳が不自由であった氏は、筑波大学付属聴覚特別支援学校高等部の木材工芸科を卒業し、額縁職人として就職するも、第一次オイルショックで失業を経験した。

その後、漆工芸の大家武田武弘氏の元で厳しい鍛錬を積み、漆工芸の世界では多数の工程を一般的には分業制で行うことが多い中で、全ての工程を一人で担う技能を有している。氏の生み出す作品は、これまで日展に34回の入選を果たすほか、数多くの表彰受賞歴として功績を残している。

聴覚障害を逆手に、一心不乱に漆工芸の創作活動に邁進し続けた氏の類い稀なる努力は現在も続いている。

○【自然を愛し、その中で共鳴したことを作品で表現する】

失業を機に自宅でのものづくりで生計を立てたいと考えた私は、漆工芸家の武田武弘氏の元を訪れ、漆の持つ魅力に惹かれて弟子入りを懇願し、師弟関係を築くことに成功した。師は、漆の工程をひとつずつ独自の手振りや筆談で教えてくれ、私自身も必死に習得する努力を重ねたが、聴覚障害者の抱える「言葉の壁」は創作における発想や構図を理解する上で、非常に困難を極めた。ひたすら師の姿勢を真似し、自分なりの表現を身につけようと模索する中、趣味の登山に出掛けた自然の中で、創作のヒントを掴むことができるようになったのは、これまで二人三脚で歩んできた内助の功によるものも大きい。

木材選定から始まり、数多くの工程を経て丁寧な手仕事で作り上げた作品は、時間の経過とともにしっとりと輝く優しさと真の強さを併せ持ち、美しい光沢を放つ漆工芸の最大の魅力である。

本人近影





[蒔絵で使用する色漆を作るために
乾漆粉を薬研で粉末にする作業]



[気Ⅱ：シマフクロウの幼鳥が巣立つ頃柏の葉が落葉し、
四季の移り変わり命の復活の喜びの表現している]